

上海短期語学研修参加報告書

外国語学部中国学科 1 年

今回、私は 2 月 10 日から 22 日まで、中華人民共和国、上海への短期語学研修に参加した。この 10 日間で多くの経験を得ることができた。

まずは、上海での学校生活から触れていきたい。私たちは、同济大学という大学で授業を受けた。同济大学は、1907 年にドイツ人が作り、以来総合大学として中国国内でも認知度の高い大学である。授業が始まる前日は、キャンパス見学が行われた。有名かつ学力の高い大学だけあり、キャンパス内は広大な敷地を有しており、さまざまな施設が充実していた。

特に学食はとても広く実際に新しくできた留学生の友達に連れていってもらった際、中国料理だけでなく韓国料理などいろいろな国の料理も食べられるようになっていた。味もとても美味しく、炒飯が一番美味しかった。また値段も飲食店と比べて少し安いので学生に人気の理由がわかった。学校の中はとても広いので自転車やバイクで移動している学生が多くみられた。

キャンパス見学で私が驚いたことは、学内に入る際の警備が厳しいことである。日本の大学の場合は基本誰でも出入り自由であるが、中国ではゲートがあり身分証つまり、学生証を持っていないと入ることが基本できない。そのため今回の研修では一人一人学生証が渡され、都度警備員に見せながら入らないといけなかった。

翌日からいよいよ授業が始まった。授業は午前で、午後は博物館の見学といったようなスケジュールである。今回の研修は私たちだけでなく、立命館大学の学生も加えての研修だった。初日は、オープンセレモニーから始まった。そこで今回の研修に同行してくれる同济大学の学生ボランティアや先生の紹介があった。

授業は初級と中級の 2 つにクラス分けされる。それぞれのクラスで授業を受けるという形である。私は初級クラスへと分けられた。クラス分けの基準は検定や中国語学習時間によって決められる。一年未満だと初級といったような感じだ。初級クラスの担任は舒舒先生という女性の先生でとても発音の綺麗で聞き取りやすい先生だった。初日は自己紹介やテキストに沿って学習していった。授業スタイルはほぼ全てが中国語で進行されていきところどころ英語での説明もあるというような感じである。もちろん日本語は話さないため、リスニング力が試される。先生は基本普通の会話のスピードで話し、時に早口になるため初めは理解できなかった。そのため毎授業しっかり集中して聴くことが大事であった。

今回の研修で一番身についたスキルはリスニングであると考え。先に述べたように中国語で授業は進むため常に聞いておく必要があるからだ。

また、今回の授業ではより実践的な中国語を学ぶことができた。例えば、中国語で「人が多い」と表すときは【很多人】と表現するように教えられるが、「人が多い」とは単に人の多い状況だけでなく、人が流れるように多いのか、たくさん行き来していて多いのか、というようにその人の多さの内容によっても表現の仕方いくつもあることを学んだ。このように、普段の日本で受ける授業では習わないようなより高度な表現の仕方などを学ぶことができた。

毎日宿題も出され量は多くはないが、常に中国語に触れられるような環境づくりがなされていた。授業最終日は、これまでに上海で過ごしてきたある 1 日の様子を他の先生やクラスメイトの前で発表するというものだった。その内容には習った表現などを入れて、ある程度スムーズに発表することができた。



次に学外での生活について触れたい。行く前から気になっていたのが物価である。行く前は、中国は世界 GDP2 位の国でましてや一番栄えている都市だから日本よりも高いだろうと思っていた。しかし、実際に来てわかったのは日本よりも安く感じたことである。水道水が飲めないため、まず水を買いにコンビニのようなお店へ入った。なんと 500 ミリリットルの水 1 本 1・5 元、つまり日本円で 31 円だったのである。日本のコンビニの三分の一程度の値段にとっても驚いた。また飲食店も高いところはもちろん高いが大体 500 から 800 円で食べることができる。

そして、公共交通機関の値段もとても安い。上海市内は、網のように地下鉄が通っていて、行きたいところへどこでも地下鉄で行くことができる。そんな上海の地下鉄は距離に応じて値段が決まる。6 キロメートル未満は約 64 円、そして 10 キロメートルを超えるごとに 1 元（約 21 円）が加算されていく仕組みだ。私は最終日の自由行動日に、ホテルから 55 キロほど離れた朱家角というところへ行ったのだが往復で 350 円くらいだった。日本の電車と比べると相当安いことがわかるだろう。タクシーも同様である。2 月 16 日、日曜日に私は友達と上海ディズニーへ遊びに行った。上海ディズニーも中心地からは少し離れたところに位置している。地下鉄だと時間がかかるためタクシーで行くことにした。40 分ほど乗っていたのだが、なんと 1900 円ちょっとだったのである。これは、日本のタクシーより相当安いことがわかる。このように、中国・上海の物価において生活品や交通費、飲食も比較的安いことがわかった。そのため、地方都市などはさらに安いと考えられる。

次に休みの日をどのように過ごしたかについて述べたい。基本土日休みで、また最終日と平日の夜はフリーだった。私はこの 12 日間で多くの観光スポットに訪れることができ、いろいろな人と話すことができた。上海で外せないスポットが南京路と外灘周辺である。南京路は地下鉄南京路駅からすぐのところで、大きなショッピングモールやホテル、レストランや露店、服屋など何から何まで楽しめる場所である。外灘は、19 世紀中頃から 20 世紀初頭の外国人居住地で、世界的な貿易都市として栄えていた。ウォール街のような建物がずらりと並び、川を挟んだ向こう側には東方明珠タワーや上海タワーといった超高層ビルが立ち並んでいる。ここでは、ショッピングや食事、景色を楽しんだ。少し路地に入ったお土産屋に入り、上海の街が描かれているマグネットが目に入った。ここは値切りのチャンスだと思い、授業で習ったフレーズを使い店員に値段交渉をした。すると、値切りに成功し、5 元値切ることができた。その店員さんと会話もすることができ、良い経験になった。



最後に、今回のプログラムでは失敗を恐れずに中国語を用いて積極的に話す勇気を得ることができた。たくさん会話の中で間違えたこともあったが、その間違いを先生や留学生は教えてくれたためとても単語やフレーズも身についた。その一方で、自分の中国語レベルの低さを実感する機会にもなった。簡単な会話ならできたが、現地人の方のは早口は聞き取れず、難しい話になるとわからなくなった。私は、大学3年時に長期留学でまた中国へ行きたいため、毎日の学習を欠かさず行うようにしたい。そしてまた中国に行った際、今回よりもスムーズに会話ができるようなレベルまで達したいと思う。